

平成28年度全国及び岡山県学力・学習状況調査 結果と今後の取組について

津山市立一宮小学校

教育目標(めざす児童生徒像)

かしこく やさしく たくましい 児童の育成

- ・自ら学ぶ子ども
- ・思いやりのある子ども
- ・最後までやりとげる子ども
- ・健康で明るい子ども

今年度の指導の重点

- 基礎学力の習熟を図り、学ぶ喜びを体験させる。→表現力の向上(自分の考えをもつ)
- 互いに認め合い、励まし合う態度を育てる。→友だちのよいところを見つけ、やさしい言葉をかけることができる子ども
- 根気よく、責任をもってやりぬく態度を育てる。→進んで家庭学習に取り組む子ども、  
・時間いっぱい掃除をする子ども
- 健康で安全な生活態度を育てる。→安全な登下校、・室内での安全な過ごし方ができる子ども、  
・気持ちの良いあいさつができる子ども  
(下線—北陵中ブロックでの共通取り組み)

調査結果について(調査結果において明らかになったこと)

【学力状況調査の結果】

- 全国(小学6年生)
- 国語A、算数Bについては、県平均とほとんど変わらない。
  - △算数Aについては、県平均と比べると正答率が高い。ただし、「数量関係」領域が県平均より低い。中でも、「知識・理解」に課題がある。
  - 国語Bについては、県平均と比べて若干低い。
  - 国語については、A・B問題ともに「読む能力」と「話す・聞く」の正答率が県平均と比べて低い。
- 県(中学1年生)
- 国語・社会・算数・理科の4教科すべてで県平均を上回った。さらに、基礎・活用ともに全教科で県平均を上回っている。
  - すべての教科で昨年度に比べ、活用問題の正答率が上がっている。

【学習状況調査の結果】

- 読書を全くしない児童の割合は県平均とほとんど変わらない。平日の読書の時間は県平均より多く、1時間以上読書をしている割合が高い。また、図書室や地域の図書館を利用する割合が高い。
- 平日のテレビやビデオ、DVDを3時間以上視聴しているは、県平均とほとんど変わらない。また、昨年と比べて、3時間以上視聴している割合が大きく減少している。
- ・携帯電話やスマートフォンなどの1日あたりの利用時間が短い、もしくは、スマートフォンを持っていない児童の正答率が高い傾向にある。
- 家庭学習を全くしない割合が県平均より高い。また、1時間未満の割合も高く、学習時間が短い児童が多い。
- ・「授業の復習をしている」、「テストで間違えた問題について勉強している」、「苦手な教科を勉強している」児童は、正答率が高い傾向にある。
- あいさつの項目が県平均より低く、昨年度よりも下がっている。

成果と課題

- 数量関係の領域に関する問題は、すべて平均以下である。中でも「割合」の問題については経年の課題である。
- 国語・算数ともにB問題に関しては、経年の課題である。記述問題に関しては、問いに正対して解けるように、授業の中でも「条件を示す」などして書くことに取り組んできたことで、国語・算数ともに改善の兆しが見られる。しかし、無回答の児童が多く継続的な課題である。
- 見通しをもって学習に取り組めるように学習の流れを学校で統一しているので、どの学級でもねらいが示されている。
- 交流や深めたりまとめたりする場面で授業によっては十分に活動できていないことがある。
- 宿題については、ほとんどの児童がきちんと取り組んでいるが、予習や復習を含めて、自分で計画を立てて学習に取り組むことができていない児童が多い。
- 中学校ブロックで共通の課題を立てて、「チャイム着席」「あいさつ」「掃除」に取り組んできたが、あいさつの声の大きさや自分から進んであいさつをすることに課題がある。チャイム着席については、多くの児童ができており、徐々に意識が高まってきている。

課題に対応した改善方法

- 経年の課題である「割合」の指導に関しては、校内研修で取り上げて、系統的な指導を行ったり、指導法の統一を図ったりする。
- 問題データベースを授業や朝学習で活用する。また、単元テストの後、時間の後半に適用問題を取り上げて実施する。
- 授業展開のスタイルを統一し、引き続き取り組む。  
・つむむ → 見直しをもつ → 自分で考える → 交流する → 深める → 振り返る
- ① 授業の中に児童が主体となる探求の場を設けることで、意欲的に学習に取り組むことができるようにする。  
(考える時間の確保、話し合いの場の設定(ペア・小グループ・全体)、まとめの時間の確保とまとめ方の指導)
- ② 教科グループによる教材研究および授業参観の実施
- 授業と家庭学習とを関連づけるサイクルと内容を考え、実践する。
- 北陵中ブロックでの連携による、学習習慣と学習規律の定着を進める。(チャイム着席・あいさつ・掃除)

取組の検証方法及び検証時期(2学期末及び年度末)

- 教員相互の授業参観の実施(教科グループごと)と交流(OJT研修等)
- 問題データベースおよび岡山県学習到達度確認テストの活用(単元終了時)  
たしかめテスト(4・5年)、NRT検査(3年)の実施において確認を行う
- 児童アンケートの実施(12月)
- 校内研修および職員会議時における取り組みの確認・検証(授業スタイル・学習規律・中学校ブロックの取り組み)

各校の具体的な達成目標(数値目標等)

- 数量関係(割合)の正答率を上げる。(県平均以上)
- 記述問題の無回答率を下げる。(全国平均より改善する)
- 家庭学習の時間が1時間以上の児童の割合を上げる。(70%以上)
- 予習・復習に取り組む児童の割合を上げる。(県平均以上)
- 各教科の「授業の内容がよくわかる」と回答する児童の割合を全国平均より5ポイントプラスにする。